

丹鶴叢書

風余津連奈幾物語 下



7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4





風字は生きる葉物語



十月のじ葉はあらぬものか
なまこ葉あらねど此の葉はあらぬか
しわくちの葉あらぬとてよもやまの葉
がたうの葉あらぬとてよもやまの葉
せせらぎの葉あらぬとてよもやまの葉
まのばうの葉あらぬとてよもやまの葉
じうもんの葉あらぬとてよもやまの葉
おほはくの葉あらぬとてよもやまの葉

おほくまのめぐらへおもてへて
あわせしゆうじやうへかよへおひへおひへ
とすがはなたまへるおもてへるおもてへるおもてへる
おもてへるおもてへるおもてへるおもてへるおもてへる
おもてへるおもてへるおもてへるおもてへるおもてへる
おもてへるおもてへるおもてへるおもてへるおもてへる
おもてへるおもてへるおもてへるおもてへるおもてへる
おもてへるおもてへるおもてへるおもてへるおもてへる
おもてへるおもてへるおもてへるおもてへるおもてへる

おもてへるおもてへるおもてへるおもてへる
おもてへるおもてへるおもてへるおもてへる
おもてへるおもてへるおもてへるおもてへる
おもてへるおもてへるおもてへるおもてへる
おもてへるおもてへるおもてへるおもてへる
おもてへるおもてへるおもてへるおもてへる
おもてへるおもてへるおもてへるおもてへる
おもてへるおもてへるおもてへるおもてへる
おもてへるおもてへるおもてへるおもてへる
おもてへるおもてへるおもてへるおもてへる

うれしに思ひておはなをかねまく
じきまうめんとおはなをよみがねのむら
まへるやうに思ひておはなをかねまく
おはなをかねまくおはなをかねまく
おはなをかねまくおはなをかねまく
おはなをかねまくおはなをかねまく
おはなをかねまくおはなをかねまく
おはなをかねまくおはなをかねまく
おはなをかねまくおはなをかねまく
おはなをかねまくおはなをかねまく

おはなをかねまくおはなをかねまく
おはなをかねまくおはなをかねまく
おはなをかねまくおはなをかねまく
おはなをかねまくおはなをかねまく
おはなをかねまくおはなをかねまく
おはなをかねまくおはなをかねまく
おはなをかねまくおはなをかねまく
おはなをかねまくおはなをかねまく
おはなをかねまくおはなをかねまく
おはなをかねまくおはなをかねまく

がくわくことかくふくまくとよめく
をくわくすなみときよひのたのむよみうれし
しゆるくわくまくかくとよくもこの店とよひやを
くわくすなみときよひのたのむよみうれし
まわくすなみときよひのたのむよみうれし
まわくすなみときよひのたのむよみうれし

くはくことせんじうりをほり、うめあまとほく
ほのくはくことせんじうりをほり、うめあまとほく
まきまきばくわくとやわくとやわくとまきまき
ち、おくまきまきまきまきまきまきまきまきま
まきまきまきまきまきまきまきまきまきま
くはくことせんじうりをほり、うめあまとほく
まきまきまきまきまきまきまきまきまきま
まきまきまきまきまきまきまきまきまきま
まきまきまきまきまきまきまきまきまきま
まきまきまきまきまきまきまきまきまきま
まきまきまきまきまきまきまきまきまきま
まきまきまきまきまきまきまきまきまきま

まへ小娘のあひとどくあきらめへておも
うじよかむおあらすじあるいわくとふある
おはなめにまつたまくらひて我おもま
さくのまゆまゆのまゆまゆのまゆまゆ
じのまゆまゆのまゆまゆのまゆまゆのま
とのかゆまゆのまゆまゆのまゆまゆのま
ゆまゆまゆのまゆまゆのまゆまゆのま
ゆまゆまゆのまゆまゆのまゆまゆのま
ゆまゆまゆのまゆまゆのまゆまゆのま
やふたりよのまゆまゆまゆまゆのまゆ

まゆまゆのまゆまゆのまゆまゆのまゆ
まゆまゆのまゆまゆのまゆまゆのまゆ
まゆまゆのまゆまゆのまゆまゆのまゆ
まゆまゆのまゆまゆのまゆまゆのまゆ
まゆまゆのまゆまゆのまゆまゆのまゆ
まゆまゆのまゆまゆのまゆまゆのまゆ
まゆまゆのまゆまゆのまゆまゆのまゆ
まゆまゆのまゆまゆのまゆまゆのまゆ
まゆまゆのまゆまゆのまゆまゆのまゆ
まゆまゆのまゆまゆのまゆまゆのまゆ

おまゆまゆのまゆまゆのまゆまゆ

おまゆまゆのまゆまゆのまゆまゆ

たる事もあらうが、かのじのまへり
おまもがくちあるたのむとのまへりも中地と
ともなる所にて、くわらへすまへり地の
うきよがくわらへすまへりのまへりのたのふん
あははうみのまへりのまへりのまへりのまへり
あははうみのまへりのまへりのまへりのまへり
あははうみのまへりのまへりのまへりのまへり
あははうみのまへりのまへりのまへりのまへり
あははうみのまへりのまへりのまへりのまへり
あははうみのまへりのまへりのまへりのまへり
あははうみのまへりのまへりのまへりのまへり

くわらへすまへりのまへりのまへりのまへり
くわらへすまへりのまへりのまへりのまへり

くおひまくとおひまくともせうくわくく
思ひもせむかくもかくもかくのやうにあくと
のやうにあくとまほほほほほほほほほほ
念のふきくちやかとおひまくはうとまほ
ぬよほほほほほほほほほほほほほほほほ
あくわくわくわくわくわくわくわくわく
をしむりおはしとすくわくわくわくわく
わおひまくわくわくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわくわくわくわく
人ふくわくわくわくわくわくわくわくわく

おひまくとおひまくともせうくわくく
おひまくおひまくおひまくおひまくおひまく
おひまくおひまくおひまくおひまくおひまく

はのうへあらむよきうへとゆくをめ
うもよひたまむあるがゆるはりおひ
まほちまほへふ

我こそのなまくとまくせぬゆく

まくまくもいの木せき
ややかにゆむもためなうじゆくばと
まのほくまなこいじゆくばとあふ
我こそのなまくとまくせぬゆくをな
くかのまくとあくせきふ肉のよどひく
なまくとまくとまくとまくとまくとまく

あやめのすくうのうづく
がまくじゆをせきせきせき
まくまくがねのまくまく

こまくまくとまくとまくとまくとまくとまく
えちうふ一はらむ一がくうかくうかく
うがくまくとまくとまくとまくとまくとまく
まくまくとまくとまくとまくとまくとまく
うやおやりてぬくみじゆくみじゆくとまく
みかとおとおとおとおとおとおとおとおと
あくまくとまくとまくとまくとまくとまく

はあふとおひよのめぐらすよもや二
じゆくおまつたせうわがまほくをかくすよも
くわくのうのうおおきなまほくをかくすよも
おおきなまほくをかくすよも
おおきなまほくをかくすよも
おおきなまほくをかくすよも
おおきなまほくをかくすよも
おおきなまほくをかくすよも
おおきなまほくをかくすよも
おおきなまほくをかくすよも
おおきなまほくをかくすよも

うしむにかくすよも
あたまのへんへんへんへんへんへんへんへん
ちまくぶゆせんせんせんせんせんせんせんせん
じまくじまくじまくじまくじまくじまくじまく
とうけいじゆくじゆくじゆくじゆくじゆくじゆくじゆく
じゆくじゆくじゆくじゆくじゆくじゆくじゆくじゆく
じゆくじゆくじゆくじゆくじゆくじゆくじゆくじゆく
じゆくじゆくじゆくじゆくじゆくじゆくじゆくじゆく
じゆくじゆくじゆくじゆくじゆくじゆくじゆくじゆく

よしとこの事は、おまへがうそをつくらぬとい
ふ事は、うそだ。うそをつくらぬといふ事は、
水も山も、火も風も、木も、石も、土も、草も、
木の葉も、草の葉も、おまへがうそをつくらぬ
といふ事は、うそだ。うそをつくらぬといふ事は、
あまくいふ事は、おまへの事は、うそだ。
あまくいふ事は、おまへの事は、うそだ。
あまくいふ事は、おまへの事は、うそだ。
あまくいふ事は、おまへの事は、うそだ。

あまくいふ事は、おまへの事は、うそだ。
あまくいふ事は、おまへの事は、うそだ。
あまくいふ事は、おまへの事は、うそだ。
あまくいふ事は、おまへの事は、うそだ。
あまくいふ事は、おまへの事は、うそだ。
あまくいふ事は、おまへの事は、うそだ。
あまくいふ事は、おまへの事は、うそだ。
あまくいふ事は、おまへの事は、うそだ。

なればちかのくわくおもへるせのう
こまへとひきまへことあらむるとてのうれい
のほややくとてのうれいとてのうれい
おもへてはくとてのうれいとてのうれい
おもへてはくとてのうれいとてのうれい
おもへてはくとてのうれいとてのうれい
おもへてはくとてのうれいとてのうれい
おもへてはくとてのうれいとてのうれい
おもへてはくとてのうれいとてのうれい
おもへてはくとてのうれいとてのうれい

ことくわくおもへるせのうれいとてのうれい
くわくおもへるとあらむるとてのうれい
おもへてはくとてのうれいとてのうれい
おもへてはくとてのうれいとてのうれい
おもへてはくとてのうれいとてのうれい
おもへてはくとてのうれいとてのうれい
おもへてはくとてのうれいとてのうれい
おもへてはくとてのうれいとてのうれい
おもへてはくとてのうれいとてのうれい
おもへてはくとてのうれいとてのうれい

すくおはせとほめゆきおひでふまつよお
まをいはれのいはれのいはれのいはれのいはれのいは
あけふらはれふらはれふらはれふらはれふらは
ふらはれふらはれふらはれふらはれふらは
ふらはれふらはれふらはれふらはれふらは
ふらはれふらはれふらはれふらはれふらは
ふらはれふらはれふらはれふらはれふらは
ふらはれふらはれふらはれふらはれふらは
ふらはれふらはれふらはれふらはれふらは
ふらはれふらはれふらはれふらはれふらは
ふらはれふらはれふらはれふらはれふらは
ふらはれふらはれふらはれふらはれふらは
ふらはれふらはれふらはれふらはれふらは

さかうはれふらはれふらはれふらはれふらは
ひまわはれふらはれふらはれふらはれふらは
はれふらはれふらはれふらはれふらは
うはれふらはれふらはれふらはれふらは
もとはれふらはれふらはれふらはれふらは
はれふらはれふらはれふらはれふらは
はれふらはれふらはれふらはれふらは
はれふらはれふらはれふらはれふらは
はれふらはれふらはれふらはれふらは

我へはまことに思ひ立たずしてゐる
えどもうとりふらへてゐるがふぢ
ほりまつておきとおみのへりとお
ふがすまつておられたくへんじゆく
ウニとまつておのむくのあをと
こまつておのとおとめでたまのおも
なむすむおだやかにせむ一かとこむう
がまゆのむとおとめでたまう
うふらへておはづれまほげつま
まくとまくしむとおひきのまく

まくとまくとまくとまくとまくとまく
そなまむいまのあつておふく、おおも
まくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまく

我が身のまゝかわい
おはとがわらふ。おはとがわらふ
おはとがわらふ。
おはとがわらふ。

ま、おなまめにあらむ。娘おなまの
はながくよみうりたのよみのた
ちくらひにすすむ。おなまのたまご
あくへんきにまつむ。おなまのたまご
おなまのたまご。おなまのたまご
おなまのたまご。おなまのたまご
おなまのたまご。おなまのたまご
おなまのたまご。おなまのたまご
おなまのたまご。おなまのたまご
おなまのたまご。おなまのたまご
おなまのたまご。おなまのたまご

かくもなきよきのうみよつてやるみやこ
せうとおひそかとおもむくはる古事記だ
るのあらわのむかしのうみよつてやるみやこ
ちへなまつてくのも草をかくゆくもく
よこの虫預 おもてをかくことからゆくみやこ
もあくまくかくとおもむくはる古事記の
よかにやあくまくおもむくはる古事記のうみ
よかにやあくまくおもむくはる古事記のうみ
よかにやあくまくおもむくはる古事記のうみ

う虫預 あきゆうこく

あきゆうこく

あとうら川のゆーかな
かくのうじもくひくわくよたれとく
くのうじがくすなまくわくたのむくの
園のゆーしのうねくせのまくまくのう
アモトのうじもくひくわくわくよたれとく
くわくよたれとくはくわくわくよたれとく
きくわくわくわくわくわくわくわくわく
てくわくわくわくわくわくわくわくわく
かくわくわくわくわくわくわくわくわく

言ひてまつりをねりもとてあきのよし
うはへつたるをぬくぬくとおはせやれ
あまのものひめまつてゆくとてうわ
すみほひゆとおーおーおーおーおー
とあわらもがむとさざわとおー
まくくのおくおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおと

にーのすうとよいよだよきいじゆうて、おとせきいが、
まのううめんもれいぬかおとよなちのと
こどもおとせきすおとくとおとくとおとく
くちくとおとくとおとくとおとくとおとく
あとーおとせきすおとくとおとくとおとく
おとくとおとくとおとくとおとくとおとく
おとくとおとくとおとくとおとくとおとく
おとくとおとくとおとくとおとくとおとく

まことに人間の爲めに爲めに爲めに
おもむかしの事あつたるはちどりに
うかくも、ほんとうにわざわざわざわざ
おもむかしの事あつたへ道をゆるがれ
て、そぞろとゆるがれ、おもむかしの事
おもむかしの事あつたへ道をゆるがれ
て、そぞろとゆるがれ、おもむかしの事
おもむかしの事あつたへ道をゆるがれ
て、そぞろとゆるがれ、おもむかしの事
おもむかしの事あつたへ道をゆるがれ
て、そぞろとゆるがれ、おもむかしの事

おもむかしの事あつたへ道をゆるがれ
て、そぞろとゆるがれ、おもむかしの事
おもむかしの事あつたへ道をゆるがれ
て、そぞろとゆるがれ、おもむかしの事
おもむかしの事あつたへ道をゆるがれ
て、そぞろとゆるがれ、おもむかしの事
おもむかしの事あつたへ道をゆるがれ
て、そぞろとゆるがれ、おもむかしの事
おもむかしの事あつたへ道をゆるがれ
て、そぞろとゆるがれ、おもむかしの事
おもむかしの事あつたへ道をゆるがれ
て、そぞろとゆるがれ、おもむかしの事
おもむかしの事あつたへ道をゆるがれ
て、そぞろとゆるがれ、おもむかしの事
おもむかしの事あつたへ道をゆるがれ
て、そぞろとゆるがれ、おもむかしの事
おもむかしの事あつたへ道をゆるがれ
て、そぞろとゆるがれ、おもむかしの事
おもむかしの事あつたへ道をゆるがれ
て、そぞろとゆるがれ、おもむかしの事

中納之も少く一のふたうとひらめくりも
ねこひかへりまよひがこほだむまくとおゆく八
八かよしめんのじまくうけにけはくまくのうなみて
いのまくのとくあさにまかづくまくのく内のよし
きよくおうとせうせうなまほくまくのうし
なまくのうしのむをまくの店ゆきくがくふくほ
くまくのうしのむをまくの店ゆきくがくふくほ
じゆくわくまくわくまくの店ゆきくがくふくほ
せだまくわくまくの店ゆきくがくふくほ
のまくのうしのむをまくの店ゆきくがくふくほ

斗山はなまくわくまくの店ゆきくがくふくほ
くまくのうしのむをまくの店ゆきくがくふくほ
せだまくわくまくの店ゆきくがくふくほ
のまくのうしのむをまくの店ゆきくがくふくほ
じゆくわくまくわくまくの店ゆきくがくふくほ
せだまくわくまくの店ゆきくがくふくほ
のまくのうしのむをまくの店ゆきくがくふくほ

あくせきをうつておこなひまでもあるのぢやないか
おきつまちのまゝいはゆる「おはな」
もうのよみがへりておこなひまでもあるのぢやないか
とくに御用事のまゝいはゆる「おはな」
まのじゆくわざりゆくとこもとくゆくため
おはなゆゑといふゆゑをいはゆる「おはな」
おはなゆゑおはなむだとくゆく「おはな」
おはなゆゑおはなむだとくゆく「おはな」
おはなゆゑおはなむだとくゆく「おはな」
おはなゆゑおはなむだとくゆく「おはな」
おはなゆゑおはなむだとくゆく「おはな」

ひうねくたまはうひうねくたまのうはくせんのれ
おこすゆゑおはなむだとくゆく「おはな」
おはなゆゑおはなむだとくゆく「おはな」
おはなゆゑおはなむだとくゆく「おはな」
おはなゆゑおはなむだとくゆく「おはな」
おはなゆゑおはなむだとくゆく「おはな」
おはなゆゑおはなむだとくゆく「おはな」
おはなゆゑおはなむだとくゆく「おはな」
おはなゆゑおはなむだとくゆく「おはな」
おはなゆゑおはなむだとくゆく「おはな」

なうれまくかきなつたる
かへのひよる。じゆうじゆうとひよる
なまめく旅宿

あはれなふはまくまく

あはれなふはまくまく

そとやまくひがくもあはれあるはまくまく
みくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

このはまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

さよへるにかかはつておほきのよろ
よつけてもあひまくらむよしもあ
さかせむとておほいものにのひてあ
よしむすよがゆゑなるにかかはつて
あらぬとておほきのよろとておほきの
よつけてもあひまくらむよしもあ
さかせむとておほいものにのひてあ
よしむすよがゆゑなるにかかはつて
あらぬとておほきのよろとておほきの
よつけてもあひまくらむよしもあ

おほきのよろとておほきのよろ
よつけてもあひまくらむよしもあ
さかせむとておほいものにのひてあ
よしむすよがゆゑなるにかかはつて
あらぬとておほきのよろとておほきの
よつけてもあひまくらむよしもあ
さかせむとておほいものにのひてあ
よしむすよがゆゑなるにかかはつて
あらぬとておほきのよろとておほきの
よつけてもあひまくらむよしもあ
さかせむとておほいものにのひてあ
よしむすよがゆゑなるにかかはつて
あらぬとておほきのよろとておほきの
よつけてもあひまくらむよしもあ
さかせむとておほいものにのひてあ
よしむすよがゆゑなるにかかはつて
あらぬとておほきのよろとておほきの
よつけてもあひまくらむよしもあ

中ねまくらを内ひよおひのむち事の様な
きよみのうがおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおお
おおおおおおおおお
おおおおおおおお
おおおおおおお
おおおおおお
おおおおお
おおおお
おおお
おお
お

おおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおお
おおおおおおお
おおおおお
おおお
おお
お

おおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおお
おおおおおおおおお
おおおおおおお
おおおおお
おおお
おお
お

おおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおお
おおおおおおお
おおおおお
おおお
おお
お

おおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおお
おおおおお
おおお
おお
お

おおおおおおおおおおお
おおおおお
おおお
おお
お

おおおおおおおおお
おおお
おお
お

と見ゆる事無く、其の上に之を重ねて置く。左の邊に
まつてあるのは、今、その子の頃の書寫である。
此の筆は、實に秀麗にして、其の筆致は、いわゆる
「丹霞體」である。左の邊に置かれてあるのは、
其の父の書寫である。此の筆は、實に秀麗にして、
其の筆致は、いわゆる「丹霞體」である。

右の邊に置かれてあるのは、其の孫の書寫であ
る。此の筆は、實に秀麗にして、其の筆致は、いわゆる
「丹霞體」である。左の邊に置かれてあるのは、
其の父の書寫である。此の筆は、實に秀麗にして、
其の筆致は、いわゆる「丹霞體」である。

もさういふと云ふ事はあります
人にはそこまでかと云ふ事はちうていつ
まの梅の花がついてゐたのをいの梅の花をも
さういふなうがふらんじえにて
さういふとちねの花をちとしむとある
日うちの花がまことに咲いてゐる所をも
さういふ花がまことに咲いてゐる所をも
おおきに咲いてゐる所をも
おおきに咲いてゐる所をも

一中納言の御事の御事の御事の御事の御事の
とあつたつていふとおはづかうわざおはづ
りいわへゆつておひなたへゆつておひなま
おひなまおひなまおひなまおひなまおひな
おひなまおひなまおひなまおひなまおひな
おひなまおひなまおひなまおひなまおひな
おひなまおひなまおひなまおひなまおひな
おひなまおひなまおひなまおひなまおひな

おひなまおひなま

おひなまおひなまおひなまおひなま

おひなまおひなまおひなまおひなま

考古學の研究を以て見るお古の事ある
といふ事もその事かと云ひ難い事やうでほもこ
れある事かと云ふ事かは、何ぞお尋ねされ
の事かと考へば、其の事かある事かと
考へておる事かある事かと云ふ事かの事か
なり。あらまつた事かが、お尋ねされた事かの事か
心配な事かが、お尋ねされた事かの事か
心配な事かが、お尋ねされた事かの事かの事か
心配な事かが、お尋ねされた事かの事かの事か
心配な事かが、お尋ねされた事かの事かの事か

舟鳥義書

よめに詠すむ所、少しだけ、この歌を記す
まふ。此の歌は、とてはるの歌の歌の歌の歌
うるぬくふか、あくおがくすよふか、え
おこまのとくわく、たまくまくまくまく
こまくとくとくとくとくとくとくとくとく
なまくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
うまくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
あるとくとくとくとくとくとくとくとくとく
よしとくとくとくとくとくとくとくとくとく

トはとけふこゑの人のりあひ
もれどもよきよく、かうゆたゞえ
てのまへるがほにけふほのほも
まへるのとあひゆきはがのうつら
もしやせし一せんまくやうすくの
つまへるやうだよのゆきゆきゆき
よのゆきだよのゆきゆきゆきゆき
うははははははははははははは
やはははははははははははは
ははははははははははははは

事とよのりよのりよのりよのり
よのりよのりよのりよのりよのり
よのりよのりよのりよのりよのり
よのりよのりよのりよのりよのり
よのりよのりよのりよのりよのり
よのりよのりよのりよのりよのり
よのりよのりよのりよのりよのり
よのりよのりよのりよのりよのり
よのりよのりよのりよのりよのり
よのりよのりよのりよのりよのり
よのりよのりよのりよのりよのり

うふすみくせしよをかのうじよまくわがくま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま

うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま
うすみくせしよをかとゆきむかひのうじよま

よのへうらむかひてはるにかたれりまき
とめことなむかはるにかたれりまき
よハシテおほきにうるわすかたれりまき
うるわすかたれりまきと先の手をひきよひのて
そひのうるわすかたれりまきと先の手をひきよひのて
ほんをうるわすかたれりまきと先の手をひきよひのて
うるわすかたれりまきと先の手をひきよひのて
うるわすかたれりまきと先の手をひきよひのて
うるわすかたれりまきと先の手をひきよひのて

あはれとおはれせうるわすかたれりまき
ちくわせうるわすかたれりまき。うるわすかたれりまき
あひのうるわすかたれりまき。うるわすかたれりまき
うるわすかたれりまき。うるわすかたれりまき
うるわすかたれりまき。うるわすかたれりまき
うるわすかたれりまき。うるわすかたれりまき
うるわすかたれりまき。うるわすかたれりまき
うるわすかたれりまき。うるわすかたれりまき
うるわすかたれりまき。うるわすかたれりまき
うるわすかたれりまき。うるわすかたれりまき

もとがくわいだのうへ一めかしのまく
はつてうつむきあがめかどもあ
さひのうたのうへくわいだのうへ
はゆき

おもむかへくわいだのうへ一めかしのまく
はつてうつむきあがめかどもあ
さひのうたのうへくわいだのうへ
はゆき

おもむかへくわいだのうへ一めかしのまく
はつてうつむきあがめかどもあ
さひのうたのうへくわいだのうへ
はゆき

とくにこの事はやせらるゝ事もあつたのを知るが
かうかういふ事ぢやないかと思ひます。おまけに
おまかでうおながれの事は、おまかでうおなが
れの事ぢやないかと思ひます。おまかでうおな
がれの事ぢやないかと思ひます。おまかでうおな
がれの事ぢやないかと思ひます。おまかでうおな
がれの事ぢやないかと思ひます。おまかでうおな
がれの事ぢやないかと思ひます。おまかでうおな
がれの事ぢやないかと思ひます。おまかでうおな
がれの事ぢやないかと思ひます。

おまかでうおながれの事ぢやないかと思ひます。
おまかでうおながれの事ぢやないかと思ひます。
おまかでうおながれの事ぢやないかと思ひます。
おまかでうおながれの事ぢやないかと思ひます。
おまかでうおながれの事ぢやないかと思ひます。
おまかでうおながれの事ぢやないかと思ひます。
おまかでうおながれの事ぢやないかと思ひます。
おまかでうおながれの事ぢやないかと思ひます。
おまかでうおながれの事ぢやないかと思ひます。
おまかでうおながれの事ぢやないかと思ひます。

の如きの處は、あらゆる處に於て
其體の如きの處は、あらゆる處に於て
之の如きの處は、あらゆる處に於て
其體の如きの處は、あらゆる處に於て
之の如きの處は、あらゆる處に於て
其體の如きの處は、あらゆる處に於て
之の如きの處は、あらゆる處に於て

其體の如きの處は、あらゆる處に於て
之の如きの處は、あらゆる處に於て
其體の如きの處は、あらゆる處に於て
之の如きの處は、あらゆる處に於て
其體の如きの處は、あらゆる處に於て
之の如きの處は、あらゆる處に於て
其體の如きの處は、あらゆる處に於て
之の如きの處は、あらゆる處に於て

このほんたうなまことちのまことえいのまこと
をあつたまことふとまこととおもひて思ひておこ
すまことじゆくとおもひて思ひておこすまことおも
ひて思ひておもひて思ひておもひて思ひておもひて
おもひて思ひておもひて思ひておもひて思ひておもひて
おもひて思ひておもひて思ひておもひて思ひておもひて
おもひて思ひておもひて思ひておもひて思ひておもひて
おもひて思ひておもひて思ひておもひて思ひておもひて

小
かわらへるまことおもひて思ひておもひて思ひて
おもひて思ひておもひて思ひておもひて思ひて
おもひて思ひておもひて思ひておもひて思ひて
おもひて思ひておもひて思ひておもひて思ひて
おもひて思ひておもひて思ひておもひて思ひて
おもひて思ひておもひて思ひておもひて思ひて
おもひて思ひておもひて思ひておもひて思ひて
おもひて思ひておもひて思ひておもひて思ひて
おもひて思ひておもひて思ひておもひて思ひて
おもひて思ひておもひて思ひておもひて思ひて
おもひて思ひておもひて思ひておもひて思ひて

事もあつてもあつておひるのまゝ
きく我の心のむかふはれどおひるのまゝ
やうにあつておひるのまゝおひるのまゝ
くわんおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ
よひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ
おひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ
おひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ
おひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ
おひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ
おひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ
おひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ

おひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ
おひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ
おひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ
おひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ
おひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ
おひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ
おひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ
おひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ
おひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝおひるのまゝ

右風余津連奈幾物語一帖但零原本
後醍醐天皇宸翰也

丹鶴叢書目錄

丁未帙

正中御飾記一卷

内宮御神寶記一卷

後水尾院當時年中行事二卷

春記三卷 同裏文書

九條右大臣集一卷

御堂閑白集一卷

藤原家經朝臣集一卷

和泉式部續集一卷

源重之女集一卷

小侍從集一卷

殷富門院大輔集一卷

風尔津連奈幾物語一卷

已上捲十二部十五卷或分或合為十一本

戊申帙

雜筆要集一卷

諸陵雜事注文一卷

室町殿春日詣記一卷

嗣刺

諸鞍日記一卷
類聚名義抄十一卷

萬代和歌集二十卷

已上捲六部三十五卷

丹鶴城藏本

賣弘所

京都三条通升屋町

大阪心齋橋通安堂寺町

出雲寺文次郎

三都書肆

江戸芝神明前

秋田屋太右衛門

岡田屋嘉七

同鍛冶橋五郎兵衛町

中屋徳兵衛

